

令和元年度第 11 回霞ヶ浦学講座「霞ヶ浦×里山」実施報告案

実施日時：令和 2 年 2 月 11 日（火）13:30—15:30

場所：霞ヶ浦環境科学センター多目的ホール 参加者数：38 名

講師：及川ひろみ氏（認定特定非営利活動法人宍塚の自然と歴史の会）

講演：「霞ヶ浦×里山」概要

【里山とは】

里山は、原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成されています。農林業などに伴うさまざまな人間の働きかけが、1,000 年以上にわたって持続的に活用されてきました。人の手が加わり続けることで維持されてきたこのような明るい林や田んぼ、小川、ため池などは、多くの環境要素が集まっており、日本の面積の 40%が里山になります。

そして里山は、水や大気の保全など、人の生活に欠かせない公益的な機能を有する環境財になります。また、多様な環境要素が集積する里山は、動植物の生息場所としてとても重要で、里山は本来、生物多様性の高い場所であるが人の手が加わらなくなることによる荒廃などの問題によって、生物多様性ホットスポットになっています。

生物多様性保全の観点からみますと人は多くの生きものに支えられて生存しており、その中には目では見ることのできない微小なものも多数存在しており、しかも、現在自然界のことでわかっていることは、ほんの一部のことであるといわれています。また、生きものは支えあうことで、生態系が成り立っており、人は生態系サービスを受けることで生存が可能になっています。森林・里海、里山、河川・草原・海・高山・深海・南極・北極どの環境も人にとって重要な環境要素になります。この環境要素を利用し人は生きています。一方で私たちがどのような生き物に、またどれだけの生きものに支えられたかを把握することはとても難しいのです。

【宍塚の里山】

霞ヶ浦の流入河川は 56 本あり、流域面積は茨城県の面積の約 1/3 を占めます。また、流域の森林の割合は約 19%になります。そして、これら流域では里山林の放置・荒廃、竹林の拡大なども起こっています。例えば土浦市においては、耕作放棄地は平成 7 年に約 225ha、平成 20 年に約 430ha と約 2 倍に増えています。

「霞ヶ浦に係る湖沼環境保全計画（第 7 期）」では水源かん養などの公益的機能を有している森林の荒廃と減少を抑制するため、森林の保全・整備が推進されています。

宍塚の里山は、土浦市宍塚側 100ha、つくば市側 80ha と合わせて 180ha になり、東京から筑波山麓までの中で最大級の里山となり、環境省「生物多様性保全上重要な里山（重要里地里山）」に選定されています。里山の中央にある「ため池」は、広さ 3.5ha のため池で「ため池百選」（農林水産省）に選定されています。生物種ではチョウ・トンボは全国の約 1/4 種（チョウ 71 種、トンボ 59 種、）、植物は県内で見られる種の 1/3 種（約 870 種）、野鳥 159 種が確認されています。また、はるか昔から人々の営みがあり、ため池、雑木林、田畑の組み合わせにより支えられてきた里山の暮らし・文化が維持・保全されています。

【宍塚の自然と歴史の会の活動】

宍塚の自然と歴史の会の保全活動は「調査⇒保全⇒教育・活用」のプロセスが基本となります。最初のステップとして里山の文化・歴史を聴取調査、専門家とともに自然環境調査を行い、保全活動の指針・土台を明らかにしています。

そして調査結果に基づき、保全計画、目標を立て、里山の歴史・豊かな自然環境を未来へ引き継ぐために再生、保全活動を実施しています。

次に、里山を舞台に自然環境、生態系、生物の多様性の大切さを、年齢を問わず学び、体験する、心を癒される場を創出しています。

具体的には宍塚大池周辺の状況、田畑、林の利用方法、行事、衣食住、娯楽、その他の生活の様子を深く知るために、農家一軒一軒を訪ねて話を聞いて歩き、里山保全の基礎資料として「聞き書き」をまとめました。この活動を通じた地元との交流や聞き取った内容が活動の土台となっています。

自然環境調査では、環境省「モニタリングサイト 1000 里地調査」のサイトに選定されています。この調査は、100 年間自然を見つめ、環境の変化を把握し、保全に役立てるための調査で、全国約 1,000 箇所で行われています。宍塚はカテゴリー「里地里山」調査の中心的な場所として、宍塚「コアサイト」に選定され、植物、野鳥、チョウ類、哺乳動物、里山全体の水質、カヤネズミ、カエルの卵塊調査を行っています。

【各館環境ごとの課題と対策】

自然環境調査の結果をもとに問題を把握、課題を設定し、対策・活動を実施しています。

フィールド (環境要素)	課題	対策・活動
雑木林・植林地	高木化や林床に光が射さない	明るい森づくり 常緑広葉樹の伐採
竹林	竹林の拡大は、生物多様性を失うばかりか、土壌の破壊。保水能力の低下を招く	竹林の拡大を止める
池・小川	外来生物の増殖により、生態系の破壊の危機	外来生物の捕獲 在来希少種の保護
谷津田・湿地・畑	耕作放棄地の拡大	生き物と共生した田んぼや畑の再生 湿地としての保全管理

表 1 各環境の課題と対策

【学びの場として】

里山は「教育」の場としても大きな役割を担っています。

「子ども探偵団」, 「観察会」, 「田んぼの学校」, 「里山学習会」, 「伝統行事体験」など様々な、そして子どもから大人まで誰もが参加できる教育活動を行っています。

継続的な里山の保全に向けては多様な主体の参加がカギとなります。「対話」を大切にすることで、地元の方々や行政、学校、企業、研究機関等とも関係が生まれ連携・協働した総合的な里山保全活動に取り組むことができるのではと思います。

